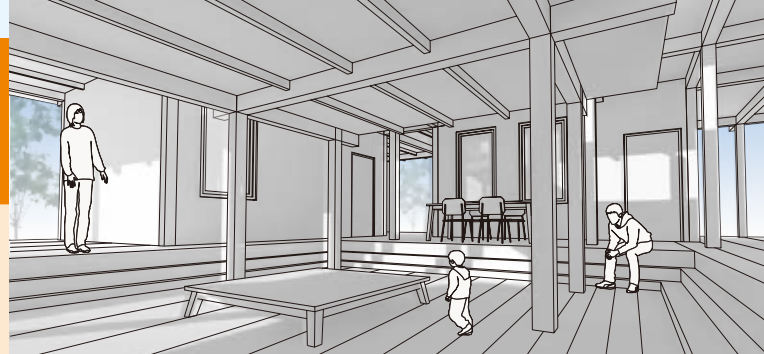


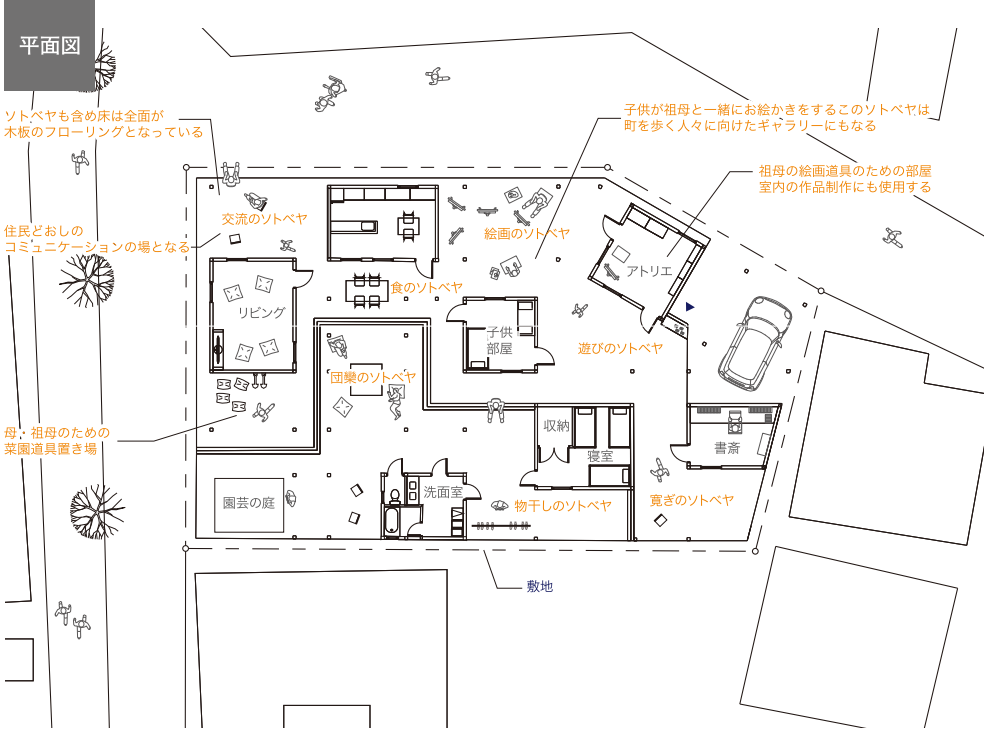
伊東 俊哉

筑波大学大学院

【作品名】ソトベヤ -はだしのまま外に出る-



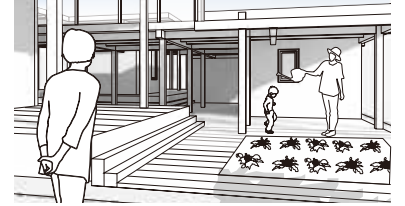
団樂のソトベヤ



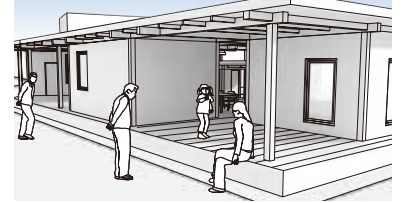
遊びのソトベヤ:2つの違う高さの屋根の隙間から光が差し込む。



菜園の庭:住人との会話のきっかけが生まれる。



交流のソトベヤ:住宅街の角地が住民同士の交流の場となる。



1.背景



(小学生) (在宅勤務) (主婦) (趣味が絵画)
・家族との適度な距離感 ・外出機会の減少
住み手を自分の実家の家族と想定。仕事や学校のオンライン化で生まれた一日中家で家族といる生活は心身の健康状態によくないと感じる。よって外に出て行きやすい住宅がこれからの生活に必要であると考えます。

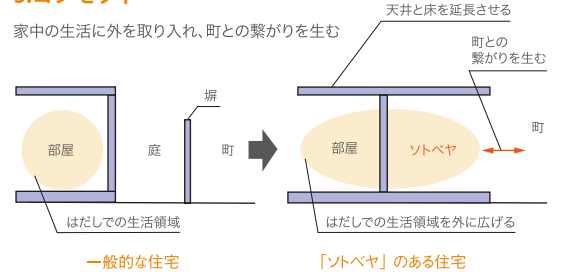
2.敷地

住人の高齢化によって商店街にあった個人店がチェーン店に変わっていく。希薄になってしまった小岩における商店街周辺の地域コミュニティ再興のきっかけをつくる。

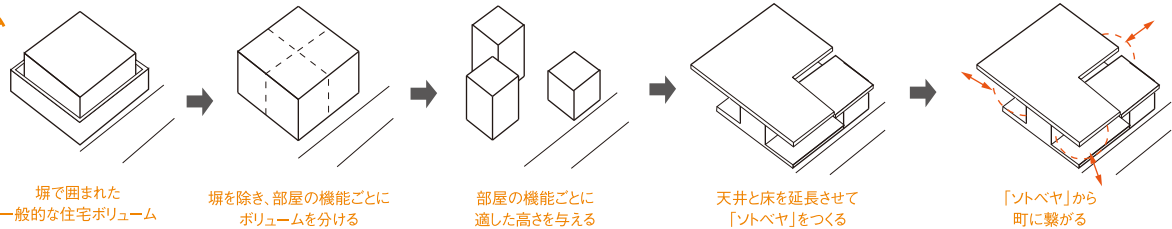


3.コンセプト

家中の生活に外を取り入れ、町との繋がりを生む



4.ダイアグラム



設計コンセプト

「家族で築く新たな住まい」というテーマから、私は自分自身の家族の暮らしの変化から着想を得て設計をした。仕事や学校の授業がオンライン化し、外に出る必要が少なくなり、家族と四六時中同じ家の中にいる状況がある。一日中家の中で過ごす生活はストレスが溜まり、心身の健康状態にもよくない。そこで私は生活する中で外に出て行きやすい住宅がこれからの家族の暮らしに必要であると感じた。
敷地は東京都江戸川区小岩の商店街近くの住宅地である。かつてこの町には個人の店舗が多く、住人同士のコミュニティが存在していた。しかし、店を経営する住人の高齢化によってそのような店は見られなくなり、地域コミュニティが希薄化した。私はこのコミュニティ再興のきっかけが生まれる住宅をつくりたい

と考える。
上記の2点の課題を踏まえ、コンセプトを「家中の生活に外を取り入れ、町との繋がりを生む」とした。部屋の床と天井を延長させ、壁は存在しないが、はだして内と外を行き来できる「ソトベヤ」をつくる。「ソトベヤ」で行われる家族の振る舞いは外から見え、町を歩く人々との会話が生まれる。それは地域コミュニティづくりのきっかけとなるだろう。
以上のような生活をする中で外に出られ、また家族の振る舞いやそれに伴って「ソトベヤ」に置く家具が住宅のファサードの一部となり、町と繋がるきっかけを生む「家族で築く新たな住まい」を私は提案する。

審査委員講評

敷地を仕切る塀なるものを取り払い必要な諸室に対して条件を与え、各々の屋根や床を延長させることで周辺に対しての居場所を生み出す案。シンプルな手法でプライバシーとパブリックの関係性を作り出し街に対して開くアイデアがいいと思いました。一方、さらにこのアイデアで周辺住宅をも構成していく新たなコミュニティも創造してほしいと感じる案でした。